イスラームから見た死②―死者への弔い―

おやさと研究所講師
澤井　真 *Makoto Sawai*

土葬とイスラーム

イスラームでは、死後出来るだけ早く埋葬するのが原則である。その理由は、中東では季節によっては急激に死体の腐敗が進むからだと考えられる。また、火葬ではなく土葬を行うことも原則である。ユダヤ・キリスト教的な影響の下、火で遺体を焼くことは、神による罰として、火獄（地獄）へ落とされた者が受ける業火を連想させるからであろう。

今日、日本の葬式は99％以上が火葬である。そのため、墓地での納骨も火葬を前提としている。そのため、ムスリムは土葬が可能な埋葬地を探しておかなければならない。日本では、数カ所でムスリム墓地が存在しており土葬が可能であるが、墓地不足は深刻である。というのも、ムスリム墓地から遠い場所に住んでいるムスリムにとっては、遺体の移送に時間とコストがかかるからである。この課題を克服するべく、全国各地のムスリム・コミュニティが中心となってムスリム墓地の建設が進められている。しかしながら、衛生上の観点から、ムスリム墓地の候補地になっている地域住民が墓地受入れに反対するなど、各地で問題となっている。

ムスリムのための葬儀ビジネス

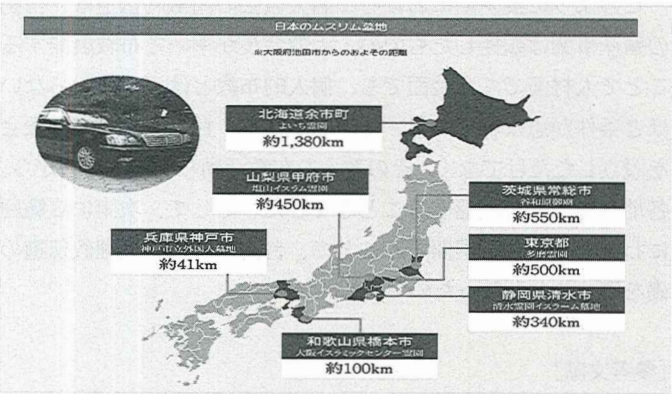
大阪府池田市にある株式会社北大阪セレモニーでは、ムスリムのための葬儀向けのビジネスを展開している。日本に滞在するムスリムの多くが外国人であることを踏まえるとき、ムスリム向けのこうしたサービスは今後ますます需要が増えると考えられる。というのも、身内を亡くした際に自ら葬儀の段取りを行うのは、たとえ日本人であっても戸惑うことが多いからである。

そのため、北大阪セレモニーでは、病院から遺体をモスクに移送するとともに、モスクやアラビア語で「ジャナーザ」（janāzah）と呼ばれる葬儀を取り仕切るイマームを手配し、葬儀後はムスリム墓地へと再び遺体を移送するサービスを行っている。[1] さらに、本国で埋葬したい遺族のために空輸の手続きも代行している。

ムスリムの葬儀の手順

死に接したとき、イスラームでは出来るだけ大声を挙げて泣いたり叫んだりしないように教えられている。こうした死への悲しみはイスラーム以前に行われていたことであって、イスラームによる教えではないからだという。

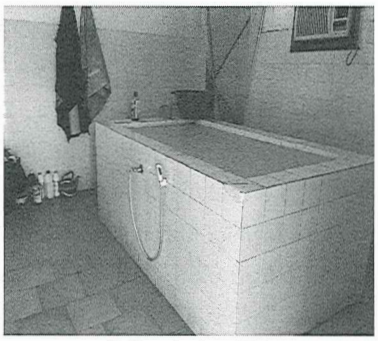
ウマルによると、預言者は「死者は、人がそのために泣き叫ぶことのゆえに、墓の中で罰を受けるであろう」と言った。[2]



日本にあるムスリム墓地（北大阪セレモニーのホームページより）

アブド・アッラーによると、預言者は「我々の中に、悲しみの現われとして頬を打ち、衣を裂き、イスラーム以前の時代のように叫ぶ者はいない」と言った。[3]

日本でも遺体を湯灌するように、イスラームでも遺体を洗体する作業がある。洗体の方法は礼拝のための浄めの手順と同様で、洗体の回数は奇数回である。その後、多くは白い布で遺体を包むことになっており、その衣はマッカ巡礼に赴いた者であれば、巡礼の際に用いた白衣を用いる。



洗体のための部屋
2019年セネガル　筆者撮影

葬儀の礼拝では、葬送を司るイマームが遺体の前に立ち、イマームの後ろに葬儀の参列者が立つ。イマームは「タクビール」（takbīr）と呼ばれる「アッラーは偉大なり」という文言を、4回唱える。その際に、彼らは頭を地面につけて跪拝（サジダ）をすることはない。その理由として考えられるのは、彼らがもし礼拝と同様の所作をしてしまうと、彼らの礼拝対象が神なのか遺体なのかが判別できないからであろう。[4]

埋葬の際には、遺体の頭をマッカの方角に向け、右半身を下にして埋葬される。右半身を下にする理由の一つとして、預言者ムハンマドが推奨していた就寝時の身体の向きが関係していると思われる。また、葬儀では遺体は棺に入れられているが、埋葬においては棺から出して埋葬される。

葬儀に参列する人々
2017年エジプト　筆者撮影

突然始まった葬儀

筆者は、エジプトでモスクでの調査中に突然始まった葬儀を偶然に観察したことがある。モスク内に多くの人々が参加する集会の途中に、棺が突然運び込まれ、集会は一時中断した。すると集会の参加者たちは遺体の後方に立ち、名前も知らない死者の安寧を祈っていた。わずか3分の葬儀であった。「葬列を見たときは、それが何であれ、立ち上がりなさい」という預言者ムハンマドの言葉には、死者に対する最大限の弔いの態度が込められている。[5]

［註］

（1）株式会社北大阪セレモニー「イスラム教の葬儀サポート」（https://kitaosakaceremony.jp/islam.html2022年4月1日アクセス）。

（2）ブハーリー（牧野信也訳）『ハディース―イスラーム伝承集成』第3巻、中央公論新社、1993年、346頁。

（3）同上、347頁。

（4）ただし、モスクの中には、人々が跪拝する先やモスク中央に廟が安置されていることも多い。

（5）ブハーリー（牧野信也訳）『ハディース―イスラーム伝承集成』第3巻、351頁。